ブランチラボから FMS へ移行に向けた当院の取組み

◎中村 綾子[1)]、木下 和久[1)]
重工記念長崎病院[1)]

【はじめに】当院は 2023 年 12 月に検査科の運営をブランチラボから FMS 方式へ移行し、検査科内の体制が大きく変化した。今回、そのスムーズな移行・運用のために行った当院の取組みを報告する。

【FMS 移行へ向けた取り組み】ブランチラボ運営当時、当院スタッフは主に生理機能検査業務を担っていたため、検体検査未経験者が多く、その業務に不慣れであった。そこで約 1 年間、FMS 移行に向けて準備、研修に取り組んだ。

Ⅰ.時間外、緊急検体検査対応研修

主に検体検査未経験者を対象に、検体受付から結果報告までのトレーニングを行った。一連の基本動作、コントロールや患者検体測定および結果の読み方、再検方法等の徹底した指導を受けた。また、輸血検査は当院では件数僅少のため、他施設での研修も併せて行った。

Ⅱ.検体検査室ルーチン業務、管理業務の引継ぎ

FMS 移行後の検体検査担当者(ブランチ時出向者含む)に対し、ルーチン業務、装置メンテナンスの他、内部・外部精度管理、帳票類管理、試薬や資材の管理、発注等、全ての業務の引継ぎを行った。

Ⅲ.臨床検査科の運営・業務の見直し

帳票類の見直し、検査結果自動承認システム導入等による業務負担軽減、その他、勤務形態の見直し、人員確保、ローテーション体制の構築等検査科全体の運営見直しに取り組んだ。

【考察と課題】今回の研修は検体検査未経験技師のスキルアップ、検査科全体の意識改善につなげることが出来た。今後各技師が担当分野にとらわれない対応が可能になると考える。また、ブランチラボの経験で得られた技術やノウハウと今回の取組みを併せてより良い検査室を作り上げたい。しかし、まだ自主運営を開始したばかりであり、今後も継続して不足部分への対応、改善が必要である。発表当日は、FMS 稼働後の状況や課題についても報告する。

【結語】各施設により、検査室の運営形態は様々であると思われる。当院では今後、FMS 方式のメリットを再認識し、病院に貢献できるよう努力していきたい。

連絡先 095-801-5045